

阪神・淡路大震災から25年



▲ラジオに出演した皆さん



▶放送前に打ち合わせの様子

12月19日に本校新聞部から2人が滋賀大学放送研究会が毎週木曜日に放送しているラジオ番組に出演した。

新聞部では特集『福島をんなぐ』と題して8年前に発生した東日本大震災について取り上げ、実際に福島を訪れて復興の様子を取材してきた。

12月19日に本校新聞部から2人が滋賀大学放送研究会が毎週木曜日に放送しているラジオ番組に出演した。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

今回参加したラジオは25年前の1月17日に発生した阪神・淡路大震災についてのもので、彦根東高校新聞10月号で、阪神・淡路大震災をきっかけに始まり、今まで続いている取り組みである『災害メモリアルアクションKOBÉ』を取り上げた新聞部にとってより深く震災を考える機会となった。

このラジオでは新聞部のほかに、現在は高島市で防災士として活動されている山本祥子さんが出演された。

初めに新聞部員が阪神・淡路大震災の印象をそれぞれ話し、今までの『福島をんなぐ』の活動内容や10月号についての説明をし、そのあと山本さんが阪神・淡路大震災の経験を明かされた。防災士になろうと思われたきっかけを「阪神・淡路大震災では多くの人が亡くなった。もっと助けることができた命があったのではないかと考えるようになり、防災士の資格を取った」と打ち明けられた。山本さんは震災を経験し「伝えることが私たちの使命だと思う」と微笑まれた。

ラジオに出演した部員の小峠実咲さん(2-6)は感想を「実際に震災を経験した人



▲ラジオは17時からの生放送だった。

の話聞くことができ、震災についてより深く知ることができた。今回学んだことを『福島をんなぐ』に活かし、もっと多くの人に震災のことを知ってもらえるように、思い出してもらえようようにしたい」と振り返った。また前川萌愛さん(1-3)は「ラジオに出演する機会はめったにないので緊張したが、良い経験ができたと思う。『福島をんなぐ』を続ける意義を改めて考える良い機会となった」とそれぞれ感想を述べた。

新聞部ではこれからも福島復興を伝えていく。多くの人に震災について伝え、知ってもらえたら幸いだ。